

# 文化情報

会報 Vol.406  
令和7年11月1日発行  
SINCE 1961  
一般財団法人  
北海道文化財保護協会

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7ビル9階 電話・FAX;011-271-4220

Website ; <https://hokkaido-bunkazai.jp>

E-mail ; [bunho@abelia.ocn.ne.jp](mailto:bunho@abelia.ocn.ne.jp)



テシオコククジラ化石の産出産状 (白線は50cmメッシュ)

## 天塩町のクジラ化石 世界的にも貴重

北海道で化石がよく出ること、みなさんご存知のことと思います。アンモナイトや恐竜は常連ですね。でも、北海道からクジラの化石が出ることは、あまり知られていないかもしれません。しかも、世界的に重要なものが多いという点も。ある仲間の世界最古のものであるとか、保存状態が極めて良いとか、珍しい新種であるとか、クジラの長い進化の様子を知る上で学術的に鍵的なものが出ています。

天塩町からは、コククジラの仲間の化石が見つかっています。コククジラは今も日本近海に生きている14mくらいになるクジラで、口の中のヒゲ板で小エビや小魚を集めて食べています。天塩町の化石は最古の種類と考えられます。

化石はそのままでは文化財として扱われませんが、北海道で見つかった化石の中には、道の天然記念物指定を受けているものがあります。学術的重要性のほかに、どのように活用されているかによっても左右されます。せつかく貴重なものが見つかっているのですから、町の宣伝に使わない手はありません。恐竜と違って、クジラが一般の興味をどれだけ惹くかはわかりませんが、マスコミ的には引けを取らないと思います。コククジラの化石は世界でも発見例が少ないため、進化の様子があまりよくわかっていません。そのため、天塩町の化石の意義を積極的に発信する意味は十分にあります。

北海道の日本海側では稚内から厚田までの海岸沿いに、時代の異なる地層が露出していて、クジラの化石がよく見つかります。「クジラ化石海岸」として、天塩町を含めた沿岸自治体の連携で盛り上げたいのですけどね。学芸員解説+地元グルメバスツアーを組めば、人が集まるかもしれません。

(福井県立恐竜博物館主任研究員 一島啓人)